

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 スポーツ科学センター備品整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 競技スポーツ課 アスリート発掘・育成係 電話番号：058-297-7003

E-mail：c11173@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,222 千円 (前年度予算額： 7,769 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,769	1,342	0	0	0	0	0	0	6,427
要求額	10,222	0	0	0	0	0	0	0	10,222
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

岐阜県スポーツ科学センター (GSSC) 及び分館である御嶽濁河高地トレーニングセンターの機能向上・維持を図るため、測定用・トレーニング用機器の整備を行う。

(2) 事業内容

以下の備品を購入する。

- ウエイトトレーニングバーベルセット1セット
- ウエイトトレーニングバー3本
- スミスマシン・ハーフラック1台
- セカンドプルラック1セット
- リアルタイム心拍モニターライセンス1式 (GSSC)
- リアルタイム心拍モニターライセンス1式 (御嶽濁河高地トレーニングセンター)
- ダーツフィッシュライセンス1式
- 動作解析用ソフトウェア1式
- ゲーム分析用パソコン1台
- 体成分分析装置1台

(3) 県負担・補助率の考え方
県10/10 (県有施設の整備であるため)

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品整備費	6,933	ウエイトトレーニングバーベルセット1セット 他
使用料	3,289	リアルタイム心拍モニターライセンス1式 他
合計	10,222	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

岐阜県スポーツ科学センターの機能向上と維持を図るため、整備計画を基本とし、測定対象となるトップアスリート等のニーズを踏まえながら計画的に整備していく。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

岐阜県スポーツ科学センターの機能向上・維持のため、科学トレーニング計測にかかる測定備品について計画整備を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

機器の状態により整備機器の変動が発生することから、目標設定は困難。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>映像解析用パソコンやタブレットをはじめ、測定機器の整備を行った。これらの機器の導入により、ジュニア層やトップアスリートのスキルチェックの向上が図られ、県のスポーツ科学トレーニング体制の拡充に寄与した。また、東京2020オリンピックに県ゆかりの選手30名輩出の目標を達成し、パラリンピックにも目標の10名には届かなかったが9名の輩出できたことに関してスポーツ科学センターの功績は大きい。</p>
令和 3 年度	<p>映像解析用パソコンやタブレットをはじめ、測定機器の整備を行った。これらの機器の導入により、ジュニア層やトップアスリートのスキルチェックの向上が図られ、県のスポーツ科学トレーニング体制の拡充に寄与した。また、東京2020オリンピックに県ゆかりの選手30名輩出の目標を達成し、パラリンピックにも目標の10名には届かなかったが9名の輩出ができた。</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない	
(評価) 2	岐阜県スポーツ科学センターにおける運動能力測定体制を、トップレベルで維持するため、最新機器の整備・更新が必要。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	最新機器の整備・更新により、最先端の運動能力測定機能の拡充が図られた。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている	
(評価) 2	備品は、経年劣化も進んでいるが、使用に際に安全性の支障が出ている物等必要最低限とし、効率的に実施している。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 現行機器は経年劣化により故障が多く、また映像解析等の技術進歩により、求められる機能を満たしていないため、整備・更新が必要となる。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 次年度以降も、現在の規格に適合せず業務に支障が出るなど、現在の使用に耐えない物件に絞り、機器整備・更新を要求する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	